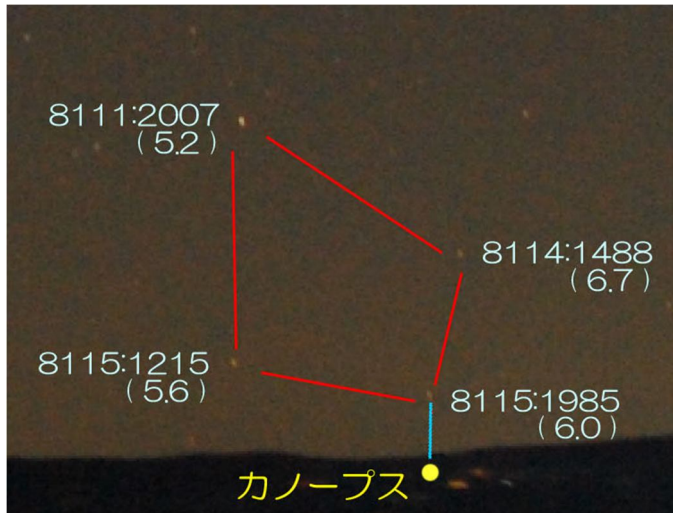


「カノープス再挑戦 (1)」

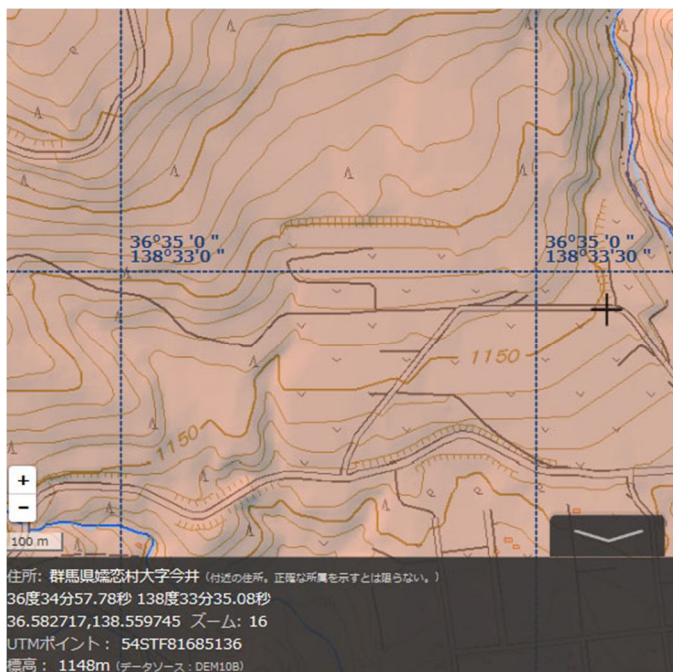
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

前回のカノープス撮影の時は、慎重に観望場所を選んだにもかかわらず、地平線までわずか 0.2° 南中高度が不足していて、目視にも撮影にも失敗した。



「前回撮影時のカノープスの位置」 地平線下 0.2°

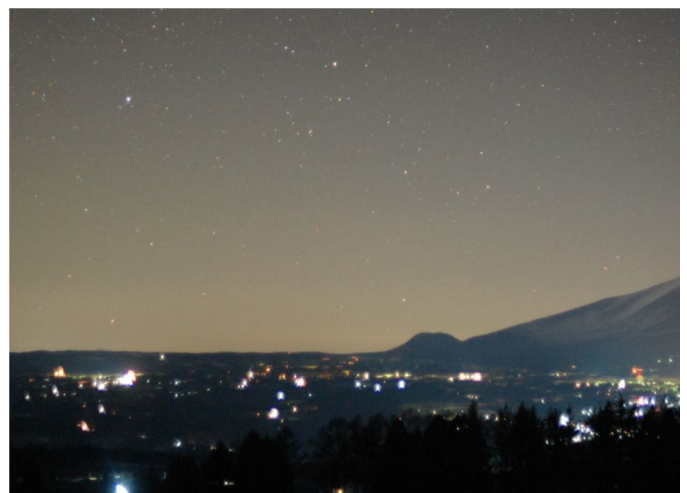
私はこのままでは済まされないと思い、浅間高原周辺で観望可能な地点を、更に広範囲に探した。当然ながら、観望地の標高は高いほうが有利である。嬭恋村内で標高が高いのは毛無峠、四阿山山頂であるが、冬季は上れない。カノープスは冬季にしか見えないのだ。嬭恋村の田代や干俣(ほしまた)も良さそうだが、南の浅間山塊が邪魔するので、候補から除外される。



結局、前回観望地とした、嬭恋村の北東のはずれにある、仙之入地区で、少しでも標高が高い場所を求めると以外に選択肢がないことがわかった。左下の地図がその新候補地である(+地点)。前回の観望地の標高が1050mなのに対し、今回は1148m。約100m高い。場所も前回のほぼ真北なので、有力な観測地候補である。計算上でも、カノープスの南中高度は前回よりも $0.3^\circ \sim 0.4^\circ$ 高くなるはずで、ギリギリではあるが、地平線に見える可能性が高い。



グーグルマップのストリート・ビューで調べたところ、候補地は南斜面の農道で、周囲はキャベツ畑らしい。南側には高い木や建造物はなく、子午線方向の見通し線に問題がないこともわかった。計算では、上写真の↓付近にカノープスが見えるはずである。



翌日の晩、実際にこの候補地に行ってみた。幸い道に雪もなく、空も快晴である。まだカノープスは昇っていない時刻だが、今度こそ期待できそうだ!